

来週の「売り物」記事はこれ



2011年5月20日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

ロングインタビュー「時代を駆ける」

在宅緩和ケア医師のパイオニア、岡部健さん

24日から2週・10回

宮城県名取市で診療所を運営する岡部健（たけし）さん（61）＝写真＝は、日本では珍しかった在宅がん患者の緩和ケアに長年取り組んできました。病院で亡くなる人が8割を占める現代で、人の死を暮らしの中に取り戻そうと、約2000人の患者をみとってきたのです。自らもがんと闘いながら、東日本大震災の被災地で命を見つめています。



一人暮らしでも本格料理 くらしナビB面 24日（火）



つつい1人分の食事を作るのが面倒で、外食や市販の惣菜に頼りがちな一人暮らし。料理研究家の川津幸子さんが、手軽で保存も利く肉料理などを紹介します。しょうゆと酒で煮込んだ「煮豚」を使えば、サラダやラーメンがグレードアップします。

企業のボランティア休暇 くらしナビA面 25日（水）

東日本大震災では大勢のボランティアが活動し、企業もボランティア休暇制度を相次ぎ新設・拡充しています。社員を出張扱いで派遣したり、ボランティア中のけがや病気を補償する仕組みも出てきました。ボランティア休暇のさまざまな取り組みや課題を追います。



「ふたりで読むおはなし」 くらしナビC面 29日（日）



童話は普通、一人で読むもの。でも、新しくスタートする「ふたりで読むおはなし」は、童話を声に出し、二人で読んでもらおうというユニークな試みです。親子、兄弟、仲良しの友達同士、ぜひ声に出して楽しんで読んでください。毎月最終週に掲載します。

運動面企画「インサイド」—東北楽天が仙台に帰るまで—

「楽天イーグルスの50日」

東日本大震災はスポーツ界にも大きな影響を与えました。仙台市に本拠を置くプロ野球・楽天もホームグラウンドのクリネックススタジアム宮城が被災。仙台で試合を行えたのは、震災発生から約50日後の4月29日でした。球団創立7年目に迎えた最大のピンチに関係者はどう立ち向かい、本拠地での試合開催にこぎつけたのか。運動面企画「インサイド」では「楽天イーグルスの50日」と題して、関係者の証言をもとに楽天の選手、フロント、裏方たちの奮闘を描きます。



第66期本因坊決定戦七番勝負 第2局 24、25日



第66期本因坊決定戦七番勝負（毎日新聞社主催、大和証券グループ協賛）は、第1局で本因坊道吾（どうわ）＝山下敬吾九段（32）＝写真右＝が挑戦者の羽根直樹九段（34）＝同左＝に見事な勝ちをおさめました。いよいよ第2局が24、25日、鹿児島市の城山観光ホテルで行われます。

昨年に続いて2回目の両者の対決。初防衛に向けて幸先のいいスタートを切った道吾が勝ちを重ねて勢いに乗るのか。はたまた羽根が勝って、タイトル奪回に向けて星を五分に戻すのか。目が離せません。

口は出しても権限はない!?

責任なき「原子力安全委員会」の正体

夕刊特集ワイド面 23日（月）

福島第1原子力発電所＝写真＝の事故は、「安全神話」の番人の権威をも失墜させました。その批判の矢面に立たされているのが原子力安全委員会です。「原子力村」の司令塔的役割を担ってきた専門家集団とは、どのような組織なのでしょうか。元日本原子力学会会長で、原子力安全委員会の委員長代理を務めた住田健二・大阪大名誉教授と、同じく原子力安全委の委員長を務めた佐藤一男氏の2人にとことん話を聞きました。



大型シリーズ 巨大地震の衝撃 日本よ！

この国はどこへ行こうとしているのか

思想家 吉本隆明さん 夕刊特集ワイド面 27日（金）



今回の東日本大震災は日本の社会のありようも根底から変えようとしています。私たちの国はどこへ向かおうとしているのか。そして、この悲しみをどう受け止めればいいのでしょうか。戦後、日本の思想界、言論界をリードし続けてきた吉本隆明さん＝写真＝の話に耳を傾けました。

“知りたいが分かる、が”がモットーの「特集ワイド」に、ご期待下さい。

紙面事情などにより掲載日が変更になることがあります。